

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	18H05282	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	神経・免疫・代謝におけるガイド ンス因子の病的意義の解明とその 制御	研究代表者 (所属・職)  (令和2年3月現在)	熊ノ郷 淳  (大阪大学・大学院医学系研究 科・教授)

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、 一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、セマフォリン関連分子に焦点をあてて神経免疫代謝の相互関連の分子機構の解明を目指すものである。

幾つかの重要な進展があり順調に進捗している。具体的には、遺伝子操作マウスと臨床検体を用いた検討により、神経細胞のミトコンドリア代謝や抑制性マクロファージにおける機能的意義の解明とともに、好酸球性副鼻腔炎、多発性硬化症、肺癌を対象とした免疫チェックポイント療法などの臨床的な課題において新しい知見を得ることに成功している。

今後は、個別の病態における特定のセマフォリン関連分子に関する研究成果を発展させるためにも、神経免疫代謝の相互関連の統合的理解につながる研究の展開が望まれる。